

徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科設置届出書

学校法人 村 崎 学 園

# 基本計画書

## 基 本 計 画

事 項	記 入 欄	備 考																																
計 画 の 区 分	学部の学科の設置																																	
フ リ ガ ナ 設 置 者	ガッコウホジシ ムヲチガクエン 学校法人 村崎学園																																	
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	トクシマブンリダク 徳島文理大学(Tokushima Bunri University)																																	
大 学 本 部 の 位 置	徳島県徳島市寺島本町東一丁目八番地																																	
大 学 の 目 的	本学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を育成することを目的とする。																																	
新 設 学 部 等 の 目 的	「自立協同」の建学精神のもとで、生命を尊重し、人間の尊厳と権利に関する深い洞察力を持ちながら、健康と福祉の向上に貢献できる質の高い理学療法士を育成することを目的とする。																																	
新 設 学 部 等 の 概 要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">新設学部等の名称</th> <th style="width: 10%;">修業年限</th> <th style="width: 10%;">入学定員</th> <th style="width: 10%;">編入学定員</th> <th style="width: 10%;">収容定員</th> <th style="width: 15%;">学位又は称号</th> <th style="width: 15%;">開設時期及び開設年次</th> <th style="width: 25%;">所在地</th> </tr> <tr> <td></td> <td>年</td> <td>人</td> <td>年次人</td> <td>人</td> <td></td> <td>年 月 第 年次</td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部 (Faculty of Health and Welfare)  理学療法学科 (Department of Physical Therapy)</td> <td>4</td> <td>60</td> <td>—</td> <td>240</td> <td>学士 (理学療法学)</td> <td>平成22年4月 第1年次</td> <td>徳島県徳島市山城町西浜 傍示180番地</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td>4</td> <td>60</td> <td>—</td> <td>240</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		年	人	年次人	人		年 月 第 年次		保健福祉学部 (Faculty of Health and Welfare)  理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	平成22年4月 第1年次	徳島県徳島市山城町西浜 傍示180番地	計	4	60	—	240				
	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地																										
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次																											
保健福祉学部 (Faculty of Health and Welfare)  理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	平成22年4月 第1年次	徳島県徳島市山城町西浜 傍示180番地																											
計	4	60	—	240																														
同一設置者内における変更状況(定員の移行, 名称の変更等)	平成22年4月 徳島文理大学人間生活学部児童学科 [定員減] 130人→110人(△20) 平成22年4月 徳島文理大学人間生活学部児童学科編入学定員 [定員減] 30人→20人(△10) 平成22年4月 徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科 [定員減] 40人→30人(△10) 平成22年4月 徳島文理大学人間生活学部心理学科 [定員減] 100人→90人(△10) 平成22年4月 徳島文理大学人間生活学部心理学科編入学定員 [定員減] 20人→10人(△10) 平成22年4月 徳島文理大学音楽学部音楽学科 [定員減] 50人→40人(△10) 平成22年4月 徳島文理大学短期大学部生活科学科食物専攻 [定員減] 50人→40人(△10) 平成22年4月 徳島文理大学短期大学部保育科 [定員減] 100人→70人(△30)																																	
教 育 課 程	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">新設学部等の名称</th> <th colspan="4" style="text-align: center;">開設する授業科目の総数</th> <th rowspan="2" style="width: 20%;">卒業要件単位数</th> </tr> <tr> <th style="width: 15%;">講義</th> <th style="width: 10%;">演習</th> <th style="width: 10%;">実験・実習</th> <th style="width: 10%;">計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部 理学療法学科</td> <td style="text-align: center;">58 科目</td> <td style="text-align: center;">28 科目</td> <td style="text-align: center;">18 科目</td> <td style="text-align: center;">104 科目</td> <td style="text-align: center;">124 単位</td> </tr> </tbody> </table>	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	講義	演習	実験・実習	計	保健福祉学部 理学療法学科	58 科目	28 科目	18 科目	104 科目	124 単位																	
	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数					卒業要件単位数																										
講義		演習	実験・実習	計																														
保健福祉学部 理学療法学科	58 科目	28 科目	18 科目	104 科目	124 単位																													

教育課程等の概要

（保健福祉学部 理学療法学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
基礎分野	人文科学関係科目	倫理学A	1・2後		2		○			1							兼1	
		文学A	1・2後		2		○										兼1	
		歴史学A	1・2後		2		○										兼1	
		音楽A	1・2後		2		○										兼1	
		美術A	1・2前		2		○										兼1	
		小計（5科目）	—	0	10	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	兼4	
	社会科学関係科目	法学A	1・2前		2		○											兼1
		心理学A	1・2前		2		○											兼1
		社会学A	1・2後		2		○											兼1
		教育学A	1・2前		2		○											兼1
		経済学A	1・2前		2		○											兼1
		情報処理	1・2前		2		○			1								兼1
		小計（6科目）	—	0	12	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	兼4	
	自然科学関係科目	数学A	1・2後		2		○			1								兼1
		物理学A	1・2後		2		○			1								兼1
		化学A	1・2前		2		○											兼1
		応用生物学A	1・2前		2		○											兼1
		小計（4科目）	—	0	8	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	兼2	
	体育・スポーツ科目	健康スポーツA	1・2前		1			○										兼1
		健康スポーツB	1・2後		1			○										兼1
	小計（2科目）	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
外国語科目	英語A①	1・2前		1			○										兼1	
	英語A②	1・2後		1			○										兼1	
	英語B①	1・2前		1			○										兼1	
	英語B②	1・2後		1			○										兼1	
	英語C①	1・2前		1			○										兼1	
	英語C②	1・2後		1			○										兼1	
	英語D①	1・2前		1			○										兼1	
	英語D②	1・2後		1			○										兼1	
	独語A①	1・2前		1			○										兼1	
	独語A②	1・2後		1			○										兼1	
	仏語A①	1・2前		1			○										兼1	
	仏語A②	1・2後		1			○										兼1	
	伊語A①	1・2前		1			○										兼1	
	伊語A②	1・2後		1			○										兼1	
外国語総合科目A①	1・2前		1			○										兼1		
外国語総合科目A②	1・2後		1			○										兼1		
	小計（16科目）	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼8		
基礎ゼミナール	文理科学	1・2前	2			○			1									
	小計（1科目）	—	2			—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	0		

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 基礎 分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	1後	1			○								兼1
	解剖学Ⅰ	1前	2			○									兼1
	解剖学Ⅱ	1後	2			○									兼1
	生理学Ⅰ	1前	2			○			1						
	生理学Ⅱ	1後	2			○			1						
	解剖学実習	2前	1					○							兼1
	生理学実習	2前	1					○	1						
	運動学Ⅰ	2前	2			○				1					
	運動学Ⅱ	2後	2			○				1					
	運動学実習	2後	1					○		1		1			
	小計(10科目)	—	16	0	0	—	—	—	1	1	0	1	0		兼2
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論	1前	2			○								兼1
	病理学	2後	2			○									兼1
	内科学	2前	2			○			1						
	整形外科Ⅰ	3前	2			○			1						
	整形外科Ⅱ	3後	2			○			1						
	神経内科学	2後	2			○			1						
	小児科学	2後	1			○									兼1
	精神医学	2前	2			○									兼1
リハビリテーション医学	1後	1			○									兼1	
老年医学	2後		1		○									兼1	
臨床心理学	2後	1			○									兼1	
栄養学	2後		1		○									兼1	
救急医学	2前	1			○									兼1	
小計(13科目)	—	18	2	0	—	—	—	2	0	0	0	0		兼6	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療と福祉	1後	2			○			1						
コミュニケーション論	1後		1		○									兼1	
公衆衛生学	2前	1			○									兼1	
生命倫理	2前	1			○			1							
リスク管理	2前	1			○									兼1	
チーム医療論	4後	1			○									兼1	
レクリエーション論	2前		1		○									兼1	
小計(7科目)	—	6	2	0	—	—	—	2	0	0	0	0		兼4	
専門 分野	基礎理学療法学	理学療法概論	1後	2			○								
	理学療法管理学	4後	1			○				1					
	運動生理学	2後	1				○				1				
	理学療法研究法	3後	1				○		1						
	調査統計学	3前	1				○		1						
	小計(5科目)	—	6	0	0	—	—	—	2	1	1	0	0	0	
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2前	2			○				1				
	理学療法評価学Ⅱ	2後	2			○				1					
	理学療法評価学実習	2後	1					○		1		2			
	運動機能障害診断学	3前	1				○		1						
運動機能障害診断学実習	3前	1					○				1				
小計(5科目)	—	7	0	0	—	—	—	1	1	0	2	0	0		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門分野	理学療法	物理療法学	3前	2			○			1						
	物理療法学実習	3後	1					○		1		1				
	基礎運動療法学	3前	1				○		1							
	義肢学	3前	2				○		1							
	義肢学実習	3後	1					○	1							
	装具学	3前	2				○			1						
	装具学実習	3後	1					○		1						
	スポーツ障害学	3後	2				○		1							
	スポーツ障害理学療法学実習	3後	1					○		1						
	神経障害理学療法学	3前	2				○		1							
	神経障害理学療法学実習	3後	1					○	1			1				
	内部障害理学療法学	3前	2				○		1		1					オムニバス
	内部障害理学療法学実習	3後	1					○	1		1					オムニバス
	小児理学療法学	3前	2				○		1							
	小児理学療法学実習	3後	1					○	1							
	日常生活活動学	3前	2				○						1			
	日常生活活動学実習	3後	1					○					2			
	理学療法研究セミナー	3通	2					○		3	3	1				
	理学療法総合演習	4後	1					○		3	3	1	2			
	小計 (19科目)	—	—	28	0	0	—	—	—	4	3	1	2	0	0	
地域理学療法	生活環境学	3後	1				○			1						
	家族社会学	2前		1			○		1							
	老年社会学	2前		1			○		1							
	地域理学療法学	3前	1				○		1							
	地域理学療法学演習	3後	1					○	1			1				
小計 (5科目)	—	—	3	2	0	—	—	—	3	1	0	1	0	0		
臨床実習	臨床実習Ⅰ(見学)	1後	1					○	3	3	1	2				
	臨床実習Ⅱ(見学)	2前	1					○	3	3	1	2				
	臨床実習Ⅲ(評価)	3前	2					○	3	3	1	2				
	臨床実習Ⅳ(総合)	4前	8					○	3	3	1	2				
	臨床実習Ⅴ(総合)	4前	8					○	3	3	1	2				
	小計 (5科目)	—	—	20	0	0	—	—	—	3	3	1	2	0	0	
卒業研究	卒業研究	4	2				○		3	3	1					
	小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	3	3	1	0	0	0	
合計 (104科目)		—	—	108	54	0	—	—	7	3	1	2	0	0	兼29	
学位又は称号	学士 (理学療法学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業のためには、124単位以上を修得しなければならない。その内訳は次のとおりとする。 基礎分野(一般総合科目)のうち、人文系、社会系、自然系の各分野より6単位以上(ただし、人文系、社会系、自然系はそれぞれ2単位以上を含むこと)、体育・スポーツ科目2単位、外国語科目は4単位以上(英語4単位を含む)、文理学2単位、計14単位以上。 専門基礎分野、専門分野、卒業研究から必修106単位、選択4単位を修得すること。 (履修科目の登録の上限：40単位(年間))							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要				
(保健福祉学部 理学療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	人文科学関係科目	倫理学A	国際化社会を生きる現代の若者にとって、倫理と宗教は極めて重要である。この認識により、基本概念として、文明や文化がそれぞれの民族によって、その本質と価値観に大きな差異がみられる。このため世界の三大宗教を考察しつつ、その宗教のもつ倫理性が人の生き方や生活そのもの、さらには「こころ」・「いのち」・幸福・愛・正邪・善悪などと大きく関わっていることを明確にする。「人間としていかに生きるか」という倫理学の根本が宗教では「信仰」そのものであることを理解し、その現代的意義を探求する。	
		文学A	現代社会における＜文学＞の意義について考えるとき、江戸時代に展開した＜俳諧＞の可能性に注目される。それは個人レベルでの作品鑑賞にとどまるものではなく、作品自体が個人と個人とを繋ぐコミュニケーションの手段でありえたのである。 俳諧作品の解釈・鑑賞とともに、俳諧史の諸相を見ることから＜座の文学＞たる俳諧の特質を理解し、現代社会における＜文学＞、また、＜ことば＞が果たす役割について認識を深めたい。	
		歴史学A	封建国家から近代国家への発展とその意味を、後発国の典型であるドイツを材料として研究する。後発国ドイツは先進英仏の強い影響下に近代化の道歩んだ。それは英仏とは異なって、後発性とナショナリズムに傾斜していた。ナチスの経験まで連ねて「後発型」について考えてみたい。 1. 封建社会の枠組み 2. ビスマルクの政治 3. 第一次世界大戦と戦後 4. ナチスの時代とその後	
		音楽A	多種多様な音楽が存在し、自由に音・音楽を享受できる、めぐまれた音楽文化状況にある現在、ビデオやテープ、CDなどによって最新の音楽情報を知り、さまざまな世界の音楽に触れて、社会における音楽の役割及び人と音楽との関わりを理解して、豊かな人間性と情操を養う。また、読譜力が楽曲理解と深い関わりをもつことから、その基礎となる音楽理論を学び、音楽に対する興味・関心と曲の構成、国や地域によって異なる音楽の特徴、時代背景などを知り、自己の音楽観を広げる。	
		美術A	美術のすべてを限られた時間で体得することはできないが、小品でも自分の制作に喜びを感じたり、優れた作品や作家に感動しそれを尊重する心を育てたい。 1. いろいろな表現方法の理解と制作 紙染め・墨流し・型押しなど。 2. 作家と作品 日本の美術（仏教美術・大和絵と絵巻・雪舟の水墨画・北斎と広重・など） 西洋の美術（ルネサンスから現代までの主な作家と作品についての概説）	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	社会科学 関係科目	法学A	我が国の法制度の根幹をなし、「日本という国のかたち」を定めている日本国憲法の大綱を把握するとともに、憲法的なもの見方と憲法に関わる諸問題への取り組み方の基本を考える。 現代国家における憲法の機能を導入部とし、日本国憲法の成立過程、特色、基本原理等を旧憲法と比較しつつ概観したうえで、統治機構及び人権の両領域について、重要な規定の趣旨・内容を学んでいくが、抽象的、観念的憲法論をひかえて、身近な事例を用いながら、できるだけ具体的なアプローチを行うように留意する。	
		心理学A	心理学における科学的研究の論理と研究方法の解説を試みるとともに、人格心理領域の基礎知識を取得させることで、客観的な自己理解と対人関係を分析する方法について理解させる。講義面ではとくに、認知面での情報処理過程に関する生物学的基盤を、生理心理学的研究領域からの文献により検討するとともに、臨床研究として問題行動への心理療法を紹介する。さらに社会的判断の歪み形成の研究を検討することで、これと他者の人間関係理解につながる交流分析や論理療法に融合させることにより、実践的な対人関係調整の方策を模索する。	
		社会学A	社会学が研究対象とする最もミクロな領域である「行為」から出発して、最もマクロである社会構造や文化にいたるまでの「社会学の基礎概念」を分かり易く解説し、社会学的思考の基礎を養う。 「現代社会」の位相として顕現する人権問題、特に「女性差別とフェミニズム」に焦点を合わせ、具体的事例に則しながら、社会システムの分析に習得した社会学的思考を応用し、社会学的研究方法を体得させることをねらいとする。	
		教育学A	教育とは何か、人間とは何かという問いは、いつの時代であっても、古くて新しい問題である。現在、社会的状況は急激に変化しつつあるが、こうした中で教育を通じての新しい人間像を追究することは、今や緊急の課題である。そこで本講では、望ましい人間の育成を、①生存の問題（生きること、学ぶこと）、②社会的存在の問題（個と集団、共生）、③国家的人間の問題（国民共通の人間像）、④人類の問題（教育の国際化）、⑤21世紀の人間像、などの視点を中心にして論じつつ、かつ学生と共に考えていく。	
		経済学A	近代経済学の基礎概念を学習するとともに、経済学的思考方法に馴染んで、現代社会の基本的な経済現象を理解する知的基盤を培うことを目的とする。 講義の内容は、「限界」、「弾力性」、「比較優位」、「リスク」、「外部性」、「国民所得」などの基礎的概念の理解に重点を置きつつ、「需要」、「供給」、「価格決定」のメカニズムの学習にはじまって、「国民所得の決定」、「景気変動」、「経済成長」、「国際貿易」の問題に及ぶ。	
		情報処理	コンピュータを用いての情報処理の現在像・未来像を追求し考察を行う。人間とコンピュータの性能の差異を知るところから始め、コンピュータ処理の利用・活用方法、人間とコンピュータの協調態勢のあり方を展望し、入出力、記憶、演算における優れたコンピュータの能力と、人間の総合判断能力を如何に組み合わせるかを具体的なコンピュータ応用の現状を具体例を通じて学習する。学習分野としては、文字加工、映像加工、音加工、通信分野を取り上げ、情報処理の総合的理解を図る。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学 関係科目	数学A	高等学校のカリキュラムに選択制がかなりの範囲で導入されたため、学生の数学の能力にかなりのパラツキが生じているのが現実であり、この傾向は今後ますます強まっていくものと思われる。このような観点にたつて授業内容は高等学校までに学んできた初等関数と大学初年度で学ぶ程度の内容をもちこむ。関数にあつては関数の考え方、基本的性質、グラフによる変化の特徴等の把握の徹底につとめる。初等関数からつづく次の展開としては微分積分法であり、その応用や発展への基礎力を養うように心がける。	
	物理学A	本講義は高等学校で物理を十分に履修しなかった学生が受講することを目的としている。大学での講義は物理学の基礎知識が多少はあることを前提にしているし、卒業後も職場や家庭でその知識が必要とされる。 物理学の基礎として、まず力学を詳しく教える。特に運動の法則とその日常生活への応用に重点を置く。エネルギーの相互変換や衝突現象についても学ぶ。さらに身の回りで目にする熱現象について力学的に考察し、熱運動の本質に迫る。	
	化学A	自然科学における化学は各分野の学問を学びそれらの分野での専門領域が真に理解でき高度な創造的機能を発揮する基礎となる科目である。現代の豊かな暮らしは科学技術の発達により生産された便利な製品(物質)が利用されている。化学Aは、空気、水など生活における物質を原子、分子のレベルから解説し分子の構造、原子の電子配置、化学結合、物質の性質、酸化と還元、酸化剤と還元剤など物質の現象を化学的視点でとらえる態度を深める。	
	応用生物学A	ビッグバンによる宇宙の誕生(150億年前)にはじまり、地球の誕生(46億年前)、生命の誕生(32億年前)と原始大気の還元的環境からオパーリンの生命の起源、ミラーの実験、核酸等(無生物→ウイルス→生物)の化学進化、生物進化の過程を理解する。特にヒトの起源と進化、バイオテクノロジーについて詳述する。 1. (1)哺乳類の進化と霊長類の出現 (2)サル及び類人猿の出現 (3)ヒト科の起源 (4)ホモサピエンスへの道 2. (1)遺伝子組み換え (2)細胞融合 (3)クローン羊・牛	
基礎分野	健康スポーツA	学生自身が自己の健康及び体力に関する自覚を高め、生涯体育・スポーツや健康に関する基本的知識理解を深め、科学的なスポーツ実践が出来るよう教授する。 またチームスポーツ等の実践において、学生の心身の調和的発達を促し、特に情緒の安定や能力的な社会性を育成し、健全な学生生活を可能にすると共に、現代社会の特有の環境から生ずる心身の不調等に対応出来る体力の養成を図る。	
	健康スポーツB	現代社会におけるスポーツ現象をめぐる事実を提示し、スポーツについてのより深い認識力を養うとともに、文化的価値を理解させる。同時にスポーツの持つ楽しさを体験させることにより、豊かで潤いのある生活を営み、生涯を通じより良く生きて行くための糧となるよう、体系的認識及び実践力を育成する。 また文化としてのスポーツのかかわりにおいて、多様な人間性・教養を深め、生涯スポーツの推進に指導的役割を果たす人材の育成をめざす。	
基礎分野	体育・スポーツ科目		



## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	外国語科目	英語A①	日常生活で用いられる実用表現を、英会話を中心に学習する。電話、学校生活、レジャータイム、病院・医療関係など、シチュエーションごとの会話例や例文のリスニング、ディクテーション、パターン・プラクティスを行う。言語を「身」につけ、使いこなせるようにするため、特に重要な表現については音読練習を徹底する。同時に日常的な英語表現を理解するための英文法の学習を適宜行う。	
		英語A②	日常生活で用いられる実用表現を学習する。レストラン、テクノロジーに関する表現、旅行、日本の食べ物や文化、政治や経済など、シチュエーションごとの会話例や例文のリスニング、ディクテーション、パターン・プラクティスを行う。さまざまな質問に即答できるように、語彙数を一段と増やし、表現バリエーションを広げつつ音読練習を徹底する。	
		英語B①	英語によるコミュニケーション力を、シチュエーション別のパターンプラクティスなどを通じて養うことを目的とする。重要表現の暗唱だけではなく、会話例に従って学習者がその都度英作文し、それを音読・暗唱するなど、実際の状況における英語使用を前提とする。ペアワーク、グループワークを基本に、英語での発言量を多くする授業活動を行う。	
		英語B②	英語によるコミュニケーション力を養うことを目的とする。実際の状況における英語使用を前提とし、様々なシチュエーションにおけるロールプレイング練習を行う。その際、学習者自身が発信者となるべく、問題発見・解決のプロセスを重要視する。ペアワーク、グループワークを基本に、英語での発言量を多くする授業活動を行う。	
		英語C①	英語の読解力の向上を主な目標に掲げる。特定のテーマに沿った英文を読む活動が中心となるが、語彙力(英単語・熟語)を身につけると同時に、正確な意味の読み取りに欠かせない英文法を習得する。語彙力についても文法についても、学習者が確実に身につけられるよう、毎時間の単語テスト、文法項目チェックなど、きめ細かい授業活動が徹底されるようにする。	
		英語C②	英語の読解力の向上を主な目標とする。毎回の小テストで語彙力、英文法を着実に身につけていくと同時に、英文を「正確」かつ「早く」読む能力を養う。そのため精読と速読・多読の活動を行う。正確な読みが重要であるため、精読の活動が中心となるが、多くの学習者が不慣れな速読・多読の活動を適宜取り入れることで、情報を素早く処理する能力も身につける。	
		英語D①	この科目では、特に英語で聞き、話す力を身につけることを念頭に置きつつ、総合的な英語力の習得を目指す。ビジネスや日常生活において想定されるさまざまな状況で英語を「発信」するための基礎的な力をE-Learningなども取り入れさらに発展的に養いつつ、現実的な場面で聞いて話せるためのスキルを数多く身につける。	
英語D②	この科目では、特に英語で読み、書く力を身につけることを念頭に置きつつ、総合的な英語力の習得を目指す。ビジネスや日常生活において想定されるさまざまな状況で英語を使用し、状況に即応するための基礎的な力をE-Learningなども取り入れさらに発展的に養いつつ、現実的な場面で文書を読み、理解し、英文を書くためのスキルを数多く身につける。			

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	外国語科目	独語A①	ドイツ語の基礎を学ぶ。さまざまな状況でドイツ語が使えるようになることをめざし、「聞く」「話す」の基本的能力を養う。また、初歩的な文法の学習を通じて、ドイツ語の構造を理解させる。	
		独語A②	独語A①に続き、「読む」「書く」の基本的な能力を養う。また、ドイツ語圏の文化・社会についても学習する。	
		仏語A①	本講義は、大学でフランス語を初めて学ぶ学生を対象としたものである。それゆえ、具体的な日常生活の中でのフランス語表現を用いてフランス語に親しむと同時に、初歩の文法を教授することで、フランス語の構造的理解を図る。	
		仏語A②	仏語A①に続き、日常の会話を中心として学習するとともに、フランス文化に親しむために、映画鑑賞などを積極的に取り入れる。	
		伊語A①	イタリア語の基礎を学び、正しい発音、会話力、読解力、作文の力をつけることを目標とする。また、言葉の背景となっているイタリアの習慣、生活文化、芸術や思想を紹介する。	
		伊語A②	イタリア語①で学んだ基礎を発展させ、過去及び未来に関する表現力を学習して、読み、書き、話す能力を身に着けると共に、日常生活に必要な会話力を養うことを目標とする。	
		外国語総合科目A①	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字の読み方・書き方から簡単な会話ができる知識・技術を習得させる。1対1の会話形式を重視した授業展開とし、全員が楽しく学習ができるように配慮するとともに、外国語を学ぶ楽しさを知らせる。学習内容は、挨拶表現と母音、挨拶表現と子音・母音、挨拶表現と終声、発音、指定詞について。	
		外国語総合科目A②	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字の読み方・書き方から簡単な会話ができる知識・技術を習得させる。1対1の会話形式を重視した授業展開とし、全員が楽しく学習ができるように配慮するとともに、外国語を学ぶ楽しさを知らせる。学習内容は、指定詞の否定形、ます体、漢数字と助数字、固有数字と助数字について。	
基礎ゼミナール	文理学	本学の建学精神及び歴史についての講話、「大学とは」と題しての講話、将来の進路とかキャリアガイダンスについての講演、及び大学での学修活動を円滑に行うために必要な基礎的な知識・技術などについての講義や演習を行い、学生が充実した大学生活を送ることができるように支援する。この授業は以下のことを目標としている。①「建学の精神」をより深く理解し、本学の学生としてのアイデンティティー、所属感、連帯感を持ち、目標を持って豊かな学生生活を送ることができるようにする。②自分の卒業後の進路、ライフプラン・キャリアプラン等について考え、学習目標をもち意欲的に大学での学習・研究活動に取り組むことができるようにする。③大学教育を受けるために必要な基礎的な学習技術(スタディ・スキルズ)を身につけ、円滑に大学教育を受けることができるようにする。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野  人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	人間発達がどのような要因が影響するのかということに関する知見を通して、発達するものとしての人間に対する理解を深める。また、ライフステージの各時期では、どのような形態機能的、精神的特徴があるのかを理解し、各時期にどのような発達上の問題が生じるのかを学習する。	
	解剖学Ⅰ	人体の構造について、器官の中で骨・関節系、筋系、神経系、感覚器などの形態・構造、機能的特徴および各器官との相互関係について学習する。また、表面解剖学を含める。	
	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰに引き続いて、器官の中で循環系、呼吸系、消化系、泌尿系、生殖系、内分泌系などの形態・構造、機能的特徴および各器官との相互関係について学習する。	
	生理学Ⅰ	生理学は生物の基本的な生命現象を対象とし、基礎医学の重要な分野である。医学における人体の機能とその制御機構を学習する。特に呼吸系、循環系、消化系、内分泌系、生殖系、腎機能系、などについての機能を学習する。	
	生理学Ⅱ	生理学Ⅰに引き続いて、細胞機能、生体が外部環境へ対応していくために必要な神経系、感覚系を中心に、感覚・運動生理の機能を学習する。この分野は、理学療法とは密接な関連がある。	
	解剖学実習	1年次に学習した人体の構造と各器官の連関を解剖体の観察を通して理解を深める。更に、学生相互に生体の観察、触知や運動などを通して体表解剖実習を行うことにより生体の正常な形態や動きについて学習する。	
	生理学実習	筋、関節、呼吸、循環、感覚の生理機能と心電図、筋電図、脳波などの測定項目について実習を行い、理解を深める。	
	運動学Ⅰ	運動学は、運動の仕組みを研究する分野であり、理学療法の基礎をなしている。解剖学、生理学、生体力学などの知識をもとに人体の運動・動作を理解する学問領域である。主として、体幹、上肢、下肢の運動メカニズムについて学習する。	
	運動学Ⅱ	運動学Ⅰに引き続いて、その応用としての姿勢・歩行のメカニズムおよび運動・動作分析などを学習する。具体的な測定装置について、その使用目的・方法を理解する。	
運動学実習	運動学を基盤とし、生理的・臨床的・運動学的計測を行い、正常な関節構成体の形態および関節運動を理解する。さらに、機器を用いた動作分析を通して四肢、体幹の運動様式について理解を深める。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野  疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論	人間が生活するなかで、医学がどのように発展してきたのかについて理解し、現代医学の役割と課題について考える。このような視点から医学全体を視野に包括的な思考を身に付ける。特に「健康」の概念を捉えた上での医学の位置付け、役割に留意する。また、リハビリテーション医学、理学療法との関連性にも留意する。	
	病理学	病気の原因、発病に到る仕組み、経過、予後について学習することが目的である。特に運動器官の腫瘍、退行性病変、炎症や、先天性疾患の発病の原因、仕組みや予後について学習する。	
	内科学	生体の機能をコントロールする3つのシステムである神経系・内分泌系・免疫系がどのようにして細胞レベル、組織レベル、生体レベルの機能維持と関わりを有しているかを学ぶ。また、臓器別に内科的疾患の成り立ちと診断・治療上の要点について学習する。	
	整形外科学Ⅰ	脊柱、四肢の骨格・関節・神経・筋の各器官や組織は、身体の運動に直結している。運動器に発生する障害を機能解剖、病態生理の面から学習し、その保存的・外科的治療の適応と方法を理解する。主として、整形外科、運動器障害の基礎知識について学習する。	
	整形外科学Ⅱ	整形外科学Ⅰに引き続いて、その各論として具体的な整形外科疾患、運動器障害について部位別あるいは病態別にその疾患・障害の特徴、治療法について学習する。	
	神経内科学	リハビリテーション医療の対象となる抹消神経および脊髄を含む中枢神経障害による運動や感覚、その他の機能障害を示す神経症状について学習する。また、小児神経学については、特に正常の運動および精神発達の評価、種々の疾患の理解と治療の基礎について学習する。	
	小児科学	理学療法士に必要な発達に伴う小児科学の基礎を学習する。特に正常の運動および精神発達の評価と種々の疾患の基礎について学習する。	
	精神医学	患者を診る・治療するという観点から精神活動の障害内容とその症状、医学的および社会的問題点を理解する。種々の検査法、治療法を学び、患者の持つ問題についても理解を深める。	
	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の歴史と理念形成の過程とその未来について理解するとともに、社会におけるリハビリテーション医学ならびに関連専門職の位置づけ、リハビリテーション医学の対象、評価法および手段としての理学療法、作業療法、日常生活動作訓練、義肢と装具、言語療法、リハビリテーション看護、工学、ソーシャルワーク等について学ぶ。	
	老年医学	老化の概念について学ぶ。高齢者の身体および精神機能的特徴を理解し、高齢期疾患と医学的治療法、特に認知症の原因、診断、治療法についても学ぶ。	
臨床心理学	人間の心の問題をどのように理解するかに注目しながら、臨床心理学の実践領域である心理療法について概観し、特に心理療法としてのカウンセリングに対する理解を深めることをねらいとする。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と 障害の成り立ち 及び回復 過程の促進	栄養学	栄養素はその化学的性質によって、糖質、脂質、タンパク質、ミネラル（無機質）、ビタミン、水に分けられ、私たちは食物を摂ることによって、これらの栄養素を体内に取り入れ、生命維持、活動および発育などの生理的生活時動を営んでいる。そこで、本教科では栄養素それぞれの性質とその人体内でのはたらきについて学び、さらに各栄養素の相互関係についても十分な理解を得ることを目的とする。	
	救急医学	急病や事故などの救急状況は思いもよらぬ時に起こり、誰もが遭遇する可能性がある。このような救急状況に遭遇した時に、冷静に状況を判断し応急処置を行うことが重要である。本科目では、救急医療についての概念を学ぶとともに、基本的な応急処置の方法を、実技を通して身につけることを目的とする。	
専門基礎分野	医療と福祉	医学的治療とは何か、医学・医療の歴史、医療の制度、医療の内容と方法 について学習する。また、現代医療の問題点と超高齢化社会における医療のあるべき姿について考察する。福祉とは何か、社会福祉に関する諸外国および我国の歴史、社会福祉制度、社会福祉援助技術について学ぶとともに、生活保障、児童福祉、身体障害者福祉、知的障害者福祉、精神障害者福祉、老人福祉について学習する。	
	コミュニケーション論	対人コミュニケーションの包括的な理解を目的に、送り手、受け手、メッセージ、チャンネル、符号化、解読など、コミュニケーションを成り立たせる要素について教授する。また、自己開示、説得、共感など、コミュニケーションの進展に関わる諸概念を構造化された体験学習を用いて体得できることを目的とする。	
	公衆衛生学	物理化学的、生物学的、社会的環境は人々の生理機能に影響を与え、健康ひいては健康障害の発生に関わっている。本講義は疾病予防から、健康障害の人々の良好な健康レベルの獲得までを目指すための学習であり、組織されたコミュニティについても学ぶ。総合的に人々の健康を守り、増進するための基礎的知識を学ぶ。	
	生命倫理	人間の生から死にいたるまで生命操作技術から移植医療、延命医療に及び様々な倫理的課題と現状について学ぶ。体外受精、遺伝子診断、男女の産み分け、尊厳死、死生学、インフォームドコンセント、病名告知、生命観、臓器移植、患者中心の医療、生命倫理と法、その他幅広く横断的に多岐に及ぶ分野について理解を深める。	
	リスク管理	安全な医療を実践するため、医療・福祉の現場において感染や医療事故防止のためのリスク管理は重要な課題である。一般的な医療・福祉機関における感染対策や事故防止について学ぶと共に、理学療法現場におけるリスク管理について理解を深める。	
	チーム医療論	予防から治療、リハビリ、社会復帰にいたるまで、各専門分野のスタッフと共に、職能を十分に発揮するだけではなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが必要であり、予防・治療における様々な専門分野の理解を深める。	
	レクリエーション論	現在、レクリエーションは健康づくりや高齢者・障害者福祉、教育、地域づくりなど、幅広い領域で用いられている。レクリエーションの技術を学ぶことにより、意欲を引き出し効果的なリハビリテーションを行うための基本を習得する。また、レクリエーションと健康増進の関連について学習するとともに、障害者を対象としたレクリエーションについても理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野	基 礎 理 学 療 法 学	理学療法概論	理学療法の導入部として理学療法および理学療法士の全体像を把握できるように総合的・体系的に学習する。理学療法の理念、歴史、業務内容、理学療法士の職域を理解するとともに、リハビリテーション医療における理学療法士の役割および他の関連医療職との連携、地域貢献ならびに理学療法の国際的な動向やトピックスについても学習する。
		理学療法管理学	理学療法士としての職業倫理、チーム医療における理学療法士の役割について理解するとともに、病院・施設の組織および記録・報告、臨床におけるリスク管理、スタッフ教育、理学療法施設基準、診療報酬等の理学療法部門の管理運営について学習する。
		運動生理学	機能回復を目的とした運動（トレーニング）には適切な運動処方を作成する能力が求められる。そのため、リハビリテーションのためのトレーニング学の法則を学ぶ必要がある。そこで、トレーニング学としての筋肉のパワーアップや持久力に関わる運動生理学の基礎知識を学習する。
		理学療法研究法	理学療法における研究の意義、研究計画の立案、研究論文の収集の仕方、調査・実験方法及び測定機器、データ分析、文献的考察および論文の書き方について学ぶとともに、国内外の研究論文の輪読演習を通して理学療法研究を理解する。
		調査統計学	統計の基礎で学んだことを基礎として、推測統計学の基礎と保健医療分野での推定方法、検定方法について学習する。また、統計処理ソフトを用いた推定、検定の演習を行い、推測統計学の考え方の理解を深める。
	理 学 療 法 評 価 学	理学療法評価学Ⅰ	理学療法における評価の意義およびWHO国際生活機能分類（ICF）に基づいた障害者の機能・構造、活動状態および社会参加の面から評価を捉える。評価における臨床的推論過程を学習することによって系統的に障害を捉える。具体的な評価法として、形態計測、関節可動域測定および感覚検査の意義を理解する。
		理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価学Ⅰで学んだ評価に引き続いて、筋力検査、反射・反応検査、筋緊張、協調性検査および付随した諸検査（テスト）の意義を理解する。
		理学療法評価学実習	身体機能の評価に際して、解剖学、生理学、運動学などの形態・機能に関する基礎知識の十分な理解が必須であり、科学的な観察力が要求される。形態測定、関節可動域測定、筋力測定、感覚測定、中枢・末梢神経障害に対する運動・感覚機能テスト、協調性・平衡機能テスト、呼吸・循環機能テスト等を学生相互に実習を行うことによって学習する。
		運動機能障害診断学	運動機能障害を引き起こす疾患や外傷に対する診断手段・方法について学習する。特に、整形外科、神経内科、脳神経外科などの領域で行う代表的な診断（方法）手技を理解する。それぞれの疾患・外傷から生ずる運動障害を疾患別、部位別、総合的に診断（評価）し、具体的な理学療法（運動療法）の実施に役立つ内容とする。
		運動機能障害診断学実習	「運動機能障害診断学」における診断（評価）手技の実際について実習を行い、その内容の理解をより深める。具体的な理学療法（運動療法）の実施に役立つ内容とする。

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野  理学療法治療学	物理療法学	水力、電気、光線、外力などの物理的エネルギーを応用した物理療法の目的、疼痛のメカニズム、物理療法器機の特性、生理的作用、治療効果、禁忌等について学習する。	
	物理療法学実習	講義で学んだ知識をもとに温熱・寒冷療法、高周波電気療法、低周波刺激法、超音波療法、赤外線・紫外線療法、水治療法、牽引療法について学生相互に実習を行うことにより機器の具体的使用法、リスク管理、効果について学習する。	
	基礎運動療法学	理学療法における運動療法の歴史、意義および目的について概説し、運動による呼吸・循環・代謝系への影響、筋の収縮様式、関節拘縮、筋萎縮、日常生活や歩行におけるバランスやスタビリティ等、運動療法の基礎となる問題について学習する。	
	義肢学	基本として切断に関する知識を学習し、義肢の歴史、切断術および具体的な股義足、大腿義足、膝義足、下腿義足、足義足(併せて上腕義手、前腕義手)などの構造、目的、特徴について理解する。	
	義肢学実習	義肢学で学んだ知識を応用して、断端管理、訓練用仮義足を作成、分解、組み立ておよび主要な義肢のソケット作成の実際を学習する。また、切断者に対する装着訓練プログラムや関連職種との連携を学習する。	
	装具学	装具、自助具の歴史、装着目的、使用上の留意点など基本的知識を学習する。具体的な装具として、体幹装具、上肢装具、下肢装具などの使用目的、構造上の特徴、使用上の留意点などを理解する。	
	装具学実習	装具学で学んだ知識を応用する。実際に装着したり、簡単なプラスチック装具や自助具、スプリントを作成することによって、装具の機能についての知識を深める。また、適合判定の実際を知り、その留意点を理解する。	
	スポーツ障害学	スポーツによる急性外傷および慢性外傷について、その発生機序、診断、理学療法評価などについて基本的な知識を学ぶ。そして、スポーツ復帰を可能にするための理学療法手技について専門的な知識・技術を教授する。また、テーピングについても含める。	
	スポーツ障害理学療法学実習	整形外科・外科系疾患による運動器障害に関する運動療法の基本的技術を学生相互の実習を通して習得することにより、障害例に対する評価、問題点の把握、治療手技の選択、治療プログラムの立案を系統的に実施できる能力を養う。	
	神経障害理学療法学	脳の機能と障害について理解するとともに脳血管障害、脳損傷、失調症、パーキンソン病、神経難病などの中枢神経障害による詩囊障害および能力障害を理解し、それぞれに対する評価、運動療法、動作訓練、ゴール設定などについて学習する。	
神経障害理学療法学実習	脳損傷による運動障害の観察、評価、分析の仕方を学ぶとともに、種々の中枢神経障害の評価、運動療法、動作練習の具体的な進め方を実習を通して学習する。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 分 野	理 学 療 法 治 療 学	内部障害理学療法学	<p>(概要) 呼吸「循環・代謝障害について機能障害の評価と運動療法およびリスク管理について学習する。呼吸器疾患についてはその病態を理解し、呼吸機能の評価および体位排痰療法を含む理学療法について学習する。心疾患については、その概念を理解するとともに、心電図の読解、運動負荷試験およびリハビリテーションプログラムの基礎について学習する。代謝障害では、主として糖尿病について病態、合併症および運動療法プログラムを学習する。</p> <p>( B ) 呼吸器疾患：呼吸機能に関する解剖学的・生理学的な知識の整理、呼吸器障害の病態、評価法、運動療法の概要およびリハビリテーションプログラムについて学習する。具体的には、呼吸機能（障害）と運動療法、運動療法の効果・禁忌およびリスク管理について学習する。</p> <p>( G ) 循環器疾患：循環機能に関する解剖学的・生理学的な知識の整理、循環器障害の病態、評価法、運動療法の概要およびリハビリテーションプログラムについて学習する。具体的には、循環機能（障害）と運動療法、運動療法の効果・禁忌およびリスク管理について学習する。</p>	オムニバス方式
		内部障害理学療法学実習	<p>(概要) 講義で学んだ知識をもとに、呼吸運動の観察・評価、機器を用いた呼吸機能の評価、心電図の測定、自転車エルゴメーターによる運動負荷試験について実習を通して学習する。また、糖尿病の運動療法について実習を行う。</p> <p>( B ) 「内部障害理学療法学」で学習した内容に引き続いて、呼吸運動の観察・評価、測定機器を用いた呼吸機能評価の実施および運動療法の実際（実技）について学習する。</p> <p>( G ) 「内部障害理学療法学」で学習した内容に引き続いて、測定機器や運動負荷試験などを用いた循環機能評価の実施および運動療法の実際（実技）について学習する。</p>	オムニバス方式
		小児理学療法学	<p>脳性麻痺児を中心とした発達障害児に対する理学療法評価と治療について学習する。正常発達を理解することにより神経系障害に起因する運動障害と運動器系障害に起因する運動障害の違いを学習し、ボバースアプローチやボイタ法等、理論的背景のある理学療法評価と治療を理解する。</p>	
		小児理学療法学実習	<p>講義で学んだ知識をもとに小児の各種発達障害に対する理学療法評価と治療の具体的方法について実践的に学習する。</p>	
		日常生活活動学	<p>家庭における日常生活動作から屋外活動、職場活動まで、障害を有する対象者を援助するために行う評価法について学習する。異なった身体障害者の姿勢・動作分析およびその環境について評価の方法論を学ぶとともに、その対策および治療の組立についても学習する。</p>	
		日常生活活動学実習	<p>講義で学んだ知識をもとに、各種障害に応じた床上動作、車椅子・杖使用の実際について介助法を含む指導法を実習する。また、福祉機器の適応、生活現場の調整についての指導法についても学習する。</p>	



## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野	理 学 療 法 治 療 学	(概要) 理学療法の専門領域で学んだ知識を基盤として、特定領域の学習を通して科学的思考を深める。関連文献の検索と輪読等を少人数グループによる学習形式で行う。 ( A ) ADL・QOLに関する評価法の活用 ( B ) 下肢切断者の理学療法 ( C ) 理学療法と介護 ( D ) 動作分析の方法論 ( E ) 表面筋電図を用いた筋の質的評価 ( F ) 対人的行動のマネージメント ( G ) リハビリテーションにおけるリスク管理	
	理 学 療 法 総 合 演 習	(概要) 理学療法総合演習は、今までに学習してきた専門基礎分野と理学療法専門分野の総まとめとして再学習するための科目である。包括的、広範的な分野を網羅した内容である。自らが今までの学習成果を再検討し、学習を深め、理学療法(士)の能力を高めることを目的としている。 ( A ) 認知障害の評価法 ( B ) 神経難病の理学療法 ( C ) 介護予防 ( D ) 装具と歩行分析 ( E ) 表面筋電図を用いた筋の質的評価 ( F ) 社会心理学から捉えた医療 ( G ) リハビリテーションにおけるリスク管理 ( H ) 認知運動療法 ( I ) 中枢系疾患と理学療法との関わり	オムニバス方式
	地 域 理 学 療 法 学	生 活 環 境 学	障害者(児)や高齢者の社会的・経済的・物理的な生活環境について、リハビリテーションを視点とする評価と整備の進め方を学ぶ。また、生活環境整備に必要な社会資源や制度の現状と活用方法について学習する。
	家 族 社 会 学	少子高齢化社会における家族の社会的機能について理解する。家族とは何か、結婚と離婚、家族の危機、家族機能と社会的支援および家族の変動などを社会的視点から捉える。また、地域リハビリテーション(理学療法)活動の視点から見た家族機能も提示する。そして今後の家族機能の在り方を考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野	地域 理 学 療 法 学	<p style="text-align: center;">老年社会学</p> <p>高齢社会における高齢者の置かれた諸現状を捉え、これからの高齢社会をどのような視点で捉えていくかを、社会学的視点から理解する。特に、エイジングと社会学、職業からの引退と社会参加、高齢者と家族、余暇生活と生きがい、高齢者の社会的地位、高齢期のQOLなど、の視点から考える。また、地域リハビリテーション（理学療法）活動への手引きとする。</p>	
	地域理学療法学	<p>地域リハビリテーションについて理解を深め、理学療法の役割や考え方、方法を学ぶ。在宅障害者（児）や高齢者・療養者のニーズの実情を理解し、地域・在宅における理学療法の展開に向けて、退院時のあり方、医療関係以外の施設リハビリテーション、通院・通所指導、訪問指導などの考え方と方法について学習する。</p>	
	地域理学療法学演習	<p>通所事業や訪問事業における介護指導の方法、福祉用具の活用方法、あるいは地域ケアを支援する各種の制度やサービスの利用法、関連職種との連携について演習を行う。</p>	
	臨床実習Ⅰ(見学)	<p>理学療法の実務的な視点で初めて病院・施設あるいは患者に接する機会であり、早期体験としての意義を持っている。臨床実習指導者をはじめ関係スタッフとの関わりの中で、理学療法士の業務や活動分野についての初歩的な理解を得ることを主眼においている。更に患者を通して障害および障害者の理解を深め、リハビリテーションおよび理学療法が臨床的に果たす役割を認識することを目的とする。</p>	
	臨床実習Ⅱ(見学)	<p>整形外科疾患、内科疾患、成人・小児中枢神経疾患、呼吸器疾患、循環器疾患などに対し検査・測定などの基本的な理学療法評価手技を実施し、得られた情報に対する分析を行う。</p>	
	臨床実習Ⅲ(評価)	<p>病院・施設等の理学療法において、臨床指導者のもとで実際の症例を担当して臨床実習を行う。症例に関する情報収集と各種の評価手技の実施を通して障害像および患者の社会的状況、ニーズ等を総合的に把握し、治療計画の作成に到る評価法の基礎を学習する。</p>	
臨床実習Ⅳ(総合)	<p>理学療法教育の最終段階として実施されるもので、理学療法実務の総合的な臨床学習を主眼とし、評価結果に基づいて問題点を抽出し、治療プログラムの立案と実際について体験学習する。</p>		
臨床実習Ⅴ(総合)	<p>臨床実習Ⅳを踏まえ、実際の症例の状況や変化に応じた評価手技の応用力を培うとともに、治療の実施に際しても患者の反応や変化を的確に把握し、目標や治療プログラムの変更を含む理学療法の進め方を学ぶ。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健福祉学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
卒業 研究	卒業研究	<p>(概要) 既習得した理学療法に関する研究テーマを設定し、各教員の指導のもとに、研究の目的、方法、データの収集と分析、文献の収集、実験・調査結果の考察まで一連の論文作成過程を通して基本的な研究能力を培うものである。</p> <p>( A ) ADL・QOLに関する評価法の活用</p> <p>( B ) 下肢切断者の理学療法</p> <p>( C ) 理学療法と介護</p> <p>( D ) 動作分析の方法論</p> <p>( E ) 表面筋電図を用いた筋の質的評価</p> <p>( F ) 対人的行動のマネージメント</p> <p>( G ) リハビリテーションにおけるリスク管理</p>	

# 徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科設置の趣旨及び

## 特に設置を必要とする理由

### I 設置の経緯

1. 本学園は創立者村崎サイが「女性の自立」を提唱し、明治28（1895）年、徳島市に学園を創設、爾来、今日に至るまで国際的視野に立って、「自立協同」の建学精神のもと、有為の人材育成に努めてきた。
2. 徳島地区の徳島キャンパスでは、昭和36（1961）年、徳島女子短期大学家政科、昭和41（1966）年、徳島女子大学家政学部を開設、その後、徳島文理大学短期大学部、徳島文理大学とそれぞれ改称し、現在に至っている。大学では、人間生活学部・薬学部・音楽学部・総合政策学部・保健福祉学部・人間生活学専攻科・音楽専攻科・助産学専攻科の5学部（11学科）3専攻科、短期大学部では、生活科学科・保育科・言語コミュニケーション学科・音楽科・商科の5学科を設置している。
3. 創立者の郷里香川地区では、香川県民の熱心な要請もあり、昭和58（1983）年4月、香川キャンパスを開設した。現在、香川キャンパスでは、文学部・理工学部・香川薬学部の3学部（9学科）を設置している。
4. 大学院については、徳島キャンパスでは、昭和54（1979）年4月、私立大学として中・四国初めての薬学研究科薬学専攻修士課程を設置した。その後、順次大学院の設置を進め、現在では、薬学研究科薬学専攻博士課程、人間生活学研究科博士（前期）課程として食物学専攻・生活環境情報学専攻・児童学専攻・心理学専攻（臨床心理学コース）、人間生活学研究科博士（後期）課程として人間生活学専攻を開設している。  
香川キャンパスでは、現在、文学研究科地域文化専攻博士課程、工学研究科システム制御工学専攻・ナノ物質工学専攻のそれぞれに博士課程、香川薬学研究科創薬科学専攻博士課程を開設している。なお、平成22年4月、香川薬学研究科薬科学専攻修士課程を設置する。
5. この度、時代の要請に応え、地域の保健・医療・福祉の向上に資するため、「理学療法学科」を設置し、優れた理学療法士の養成にあたりたいと考えている。
6. 理学療法学科の概要は次のとおりとする

学部名	学科名	修業年限	入学定員	収容定員	学位	開設の時期
保健福祉学部 (Faculty of Health and Welfare)	理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	4年	60名	240名	学士 (理学療法学) (Bachelor of Physical Therapy)	平成22年 4月1日

## Ⅱ 理学療法学科設置の趣旨及び必要性

### 1 設置の趣旨

近年、社会が著しく変化するなかで、ますます進む少子・高齢社会において、高福祉社会の実現を目指し、人々の健康の増進と生活の質的向上、保健医療の基盤の充実や保健福祉サービスの整備が不可欠となっている。殊に、医療の高度化や多様化が進むなか、福祉分野と連携したケアの提供・実践に対する期待や要求は一段と高まっており、健康を支援する専門職の養成は大きな課題となっている。

こうした社会のニーズに応えるため、本学では、これまで保健、福祉分野の総合的教育研究を目指し、薬剤師養成の薬学部及び香川薬学部、管理栄養士養成の食物栄養学科、臨床工学技士養成の臨床工学科等、様々なコメディカルスタッフの養成を行ってきたが、平成20年4月より、生命を尊重し人間の尊厳と権利に関する理解と深い洞察力を持ち、健康と福祉の向上に貢献できる質の高い看護職員の養成を目指し、保健福祉学部看護学科を設置した。更にその領域を広げ、より相乗効果が上げられるよう、理学療法士養成を目指す理学療法学科を設置することとした。

### 2 本学の教育研究上の理念と目的

教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を養成する。

### 3 本学の理学療法士養成教育の理念と教育目標

理学療法学科の教育理念は、生命に対して深い畏敬の念を抱き、豊かな人間性と良識を持ち、実践をとおして積極的に社会に貢献できる人材を養成することにある。そのための教育目標を次のとおりとする。

- (1) 医療職員としての使命感と倫理観の涵養
- (2) 論理的思考力と問題解決能力の醸成
- (3) 医療の場におけるコミュニケーション能力の養成
- (4) 医療職員としての高度専門職業能力の育成

### 4 理学療法士の養成に対する基本的な考え方

学士課程における理学療法士養成教育として、理学療法学の基礎の上に、それぞれ、実際の場において十分役立つ実践力を養うプロセスとし、かつ、生涯教育を視野に入れた教育課程とする。

## 5 理学療法学科の社会的・地域的必要性

### (1) 四国の理学療法士の養成状況

平成21年4月現在、四国における理学療法士養成施設は11校で、その入学定員は450名である。全て専修学校であり、3年制が7校と4年制が4校になっている。

本県における、理学療法士養成施設は3年制2校（専修学校）で、入学定員は80名になっている。地域の医療を充実向上させ、健康な社会を実現するためには、質の高い人材養成が求められており、学士課程における理学療法士養成は、社会の要請であり急務であると考えられる。

### (2) 理学療法士の需給の見通し

徳島県では、医療機関及び福祉施設で600名余りの理学療法士が活躍している。（平成19年日本理学療法士協会調査）徳島県は、対人口比で見た場合医療施設が多く、理学療法士が活躍できる機関が数多く存在する。

理学療法士の将来は、高齢化社会が進んだことで変化してきており、2000年に、主に65歳以上の高齢者を対象にした介護保険制度がスタートした事に伴い、高齢者は地域や在宅でのケアを前提に福祉サービスが選択できるようになった。理学療法士の役割として、医療施設でのリハビリテーションはキュア（治療）として行われるのに対して、福祉分野では高齢者の住む地域に密着したケア（介護）として行われる。（通所リハビリテーション、在宅デイケアサービス、訪問リハビリテーション、訪問看護によるリハビリテーション）

これまでは8割近くの理学療法士が病院・診療所などの医療機関に勤務していたが、今後は介護老人保健施設、訪問看護・訪問リハビリテーションなどの医療福祉中間施設や老人福祉施設といった福祉施設での活躍が期待される。平成22年度の徳島県内における高齢化率は、26.6%と予想され、ますます医療施設以外でのリハビリテーションの需要が高まると考えられる。

また、欧米のプロスポーツチームでは、スポーツドクターと専任の理学療法士がいるケースが一般的だが、日本でもプロ野球やプロサッカーのチームの一部や、体育大学の健康管理センターといった、スポーツの分野で活躍する理学療法士も増えてきている。

このように、理学療法士の活躍する分野は、従来の治療行為としてのリハビリテーションから、予防医学的な観点からの機能維持や、スポーツ等における筋力トレーニングや身体的機能増進活動等、様々な分野での活躍が期待されている。

## 6 卒業後の進路

理学療法士の資格を生かした進路について、具体的に考えられるものは、次のとおりである。

- 病院・診療所における機能回復訓練業務
- 身体障害者等施設における機能回復訓練業務
- 訪問看護ステーション、在宅看護支援センターにおける訪問・巡回ケア等

- 老人保健施設、老人福祉施設、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等における高齢者等の機能回復訓練及び健康維持業務
- スポーツに関するケア業務
- 大学院等の高等教育機関への進学

医療の高度化や多様化、福祉分野と連携したケアの提供・実践に対する期待や要求など、新たな需要が増加し、理学療法士の活躍が必要とされる場合は、今後ますます増大することが予想される。また、高齢社会になって、慢性疾患の増加が著しいこと、生活の質の向上を求める傾向が高まりつつあることなどから、在宅での介護・療養を希望する者が増加している。また、スポーツ医学等新たな分野における理学療法士の需要も増加しており、本学科で育成する人材に対する需要は、更に多くなると考えられる。

### Ⅲ 学部、学科等の特色

#### 1 本学理学療法学科の特色

理学療法学科においては、Ⅱの3に述べた本学理学療法士教育の理念と教育目標に基づき、次のような特色を持った人材の育成を図る。

- (1) 医療職員としての使命感や高邁な倫理観を備え、豊かな人間性を身につけた専門職を育成する。

理学療法士は、さまざまな人に向き合う仕事であることから、柔軟に対応できる能力や豊かな人間性、高邁な倫理観を備えた人材養成が求められる。こうしたことから、感性を磨き、相手の立場に立って考えるとともに、対象者に自立的精神を持たせ、前向きな姿勢に価値観を見いだせる気持ちを抱かせることができる人材を育む人間教育に力を入れたい。

このため、基礎分野（一般総合科目）の各科目に加えて、専門基礎分野に「臨床心理学」を設け、相手を理解し相手の立場になって考えることの大切さを考えさせる。また、専門基礎分野の科目に「生命倫理」を設け、生命倫理の大切さを学ばせる。

- (2) 基礎・基本を重視し、課題に対応できる医療職員としての実践力や論理的思考力、問題解決力を身につけ、優れたコミュニケーション能力を持った専門職を育成する。

医療の高度化、専門化が進むとともに、国民のニーズの多様化や医療の安全に対する関心の高まりなどが見られるなかで、医療現場での危機管理が重要になってきている。こうした場合、的確な判断力や論理的思考力、問題解決力、適切な実践力等が求められる。更に、医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床工学技士等とのチーム医療体制が重視され、それぞれの専門性、的確な判断に基づく行動力、コミュニケーション能力が要求される。

専門の各科目分野で、確実な基礎的・基本的な知識・技能が習得できるよう、講義・

演習・実習の場において、学生一人一人に目を配った指導に努める。

- (3) 医療の高度化、専門化に対応し、自ら幅広く多様な情報を収集し、生涯をとおして学習し続ける専門職としての職業人を育成する。

これからの医療は、保健、福祉との連携が欠かせない。その為、保健や福祉等に関する情報に精通するだけでなく、連携のために必要となる情報を、積極的に発信する役割を担っていく必要があると共に、患者に関する情報やデータを有効に蓄積し、分析する手法を習得する必要がある。また、これらのことを理解した上で、生涯学習を続ける姿勢を保ち、努力を怠らない理学療法士を育成する。

- (4) 地域の健康・福祉に貢献できる専門職を育成する。

国立社会保障・人口問題研究所資料によると、徳島県の高齢化率は、平成22年度、26.6%と予想されている。また、同資料によると、徳島県は、平成27(2015)年には高齢化率30%を超えると予想されている。このような状況から、在宅等で地域ケアを求める人々の割合が増加することが考えられる。

また、徳島県では、糖尿病による死亡率が14年間全国第1位、肝臓癌による死亡率も高く、健康増進対策としての行動計画を策定し取り組んでいるところである。

こうした地域の実態に対応するためにも、専門基礎分野の科目に、「老年医学」、専門分野の科目に、「老年社会学」を設け、高齢社会における高齢者の置かれた諸現状を捉えるとともに、高齢者に対する高齢期疾患と医学的治療法、機能回復等に関しての理解を深める。さらに、医療や地域ケアを担っている病院や地方自治体、保健所と連携をとりながら、地域の健康に関わる課題を理解し、地域保健医療福祉サービスの向上に貢献できる専門職を育成する。

## 2 総合大学としての特質を生かしたコメディカル教育の推進

本学はIで述べたように、複数の学部・学科、大学院を備えた総合大学で、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士、臨床工学技士、音楽療法士、精神保健福祉士、看護師・保健師・助産師の養成課程を置き、コメディカル教育の推進に努めている。この特質を生かし、様々な科目において当該学科との連携を図り、コメディカル教育を推進する。具体的には、薬学科、食物栄養学科、心理学科、臨床工学科、音楽学科、人間福祉学科、看護学科と、教員、学生間の交流を密にし、研修会や意見交換会等を実施する。

このように、本学では高等教育機関として、充実した教育条件のもとで、社会的に要請されている実践的、創造的で人間性に富む質的に高い理学療法士の養成を行うことができると考えている。



### 3 社会の要請に応じた理学療法士教育の推進

現今の医療では、チーム医療体制と在宅ケア体制の整備が特に求められている。このために、チーム医療を担える高度の専門的知識と技術を習得し、かつ在宅ケアが出来る理学療法士の養成は不可欠である。このための教育プログラムとして、専門分野の科目の中に、「チーム医療論」、「日常生活活動学」を設けている。